農村のポテンシャル発掘・活用推進事業取組事例集

令和4年3月発行

Kagoshima 農村の明るい未来

地域をおこす
農村の
ポテンシャル

鹿児島県農政部農村振興課　むらづくり推進係
電話/099-286-3108

地域をおこす農村のポテンシャル

九州南部に位置する鹿児島県。土地の多くがシラス台地から成り、薩摩半島、大隅半島、そして奄美群島などの離島、それぞれに独自の農村文化が育まれてきた。

時代は流れ、暮らしや農業形態の変化、そして少子高齢化などの課題を解決するために、集落では様々な地域活動が行われている。農村集落の人々が立ち上がり、地域資源を活用しながら、より良い農村を創り出していく。その力は、まさに農村のポテンシャル。

鹿児島県の農村のポテンシャルを持った5地域（南九州市大久保集落、田部田地区、さつま町中津川区、錦江町宿利原地区、大和村国直集落）の活動に学び、地域活性化に大いに役立てよう。

Google マップでアクセス！

このQRコードを読み込むと、各事業実施地区について、場所やアクセス経路を確認できます

INDEX

02 地　図

04 大久保集落営農組合

06 農事組合法人たべた（田んぼアート実行委員会）

08 中津川区公民館

10 宿利原地区公民館

12 特定非営利活動法人 TAMASU

14 農村のポテンシャル（潜在的な魅力）を活かした地域活性化に向けて

フォトコンテスト入賞写真（一例）

南九州市

大久保集落営農組合

晩秋のひまわりで明るい集落に

秋も暮れる頃、涼しい風に揺れるひまわりが輝きを見せる。晩秋のひまわりが一面に咲き誇るのは、南九州市川辺町の大久保集落。大久保集落は山間部にある比較的小さな集落で、「大久保集落営農組合」が中心となり、道路・河川・農地など、大久保の自然と生活環境を守るため、道路・河川の草払い、荒廃農地の保全管理を積極的に行っている。組合が設立されたのは平成23年のこと。集落の宝である暮らしの中の美しい田園風景を守るため、休耕田と荒廃農地を活用した「晩秋に咲くひまわり」の植栽事業が始まった。

ひまわり祭りと天狗伝説

住民が思いを込めて植えたひまわりは11月に花開く。その数は約15万本にもなり、集落の姫を埋め尽くす。毎年11月には「ひまわり祭り」が開催され、美しいひまわり畑を一目見ようと多くの人が訪れている。南九州市のブランド茶「知覧茶のふるまい茶」でおもてなし、地域の農産物や焼き芋・手作りの郷土菓子「かからん団子・ヨモギ団子」の販売やフォトコンテストなどで訪れた人との交流を楽しんでいる。ひまわりの花は5本までなら自由に持ち帰りもでき、「ひまわりの花と一緒に笑顔を持ち帰ってもらっています」と集落の住民も喜んでいる。

晩秋のひまわりをぜひ見に来てください！

ひまわり担当 東篤氏

地域活動の概要

天狗伝説が残る南九州市川辺町の大久保集落。平成23年に「大久保集落営農組合」を設立し、翌年に休耕田と荒廃農地を活用した「晩秋に咲くひまわり」の植栽事業が始まった。約15万本のひまわりが11月中旬まで楽しむことができ、毎年11月には「ひまわり祭り」を開催。農産物の販売、フォトコンテストなどで、訪れた人との交流を深めている。

フォトコンテスト入賞写真（一例）

また、大久保集落に残る天狗が舞い降りたという伝説の証拠である「天狗石」も残っているため、「大久保は天狗に認められた稲作に適した住みやすい地域」という伝説に因んだ「天狗米」を販売している。

大久保集落を元気にしたいという思いを込めながら、集落の人々が一丸となってひまわりを植栽すると、自然と絆が深まっていく。さらに地域内外の交流を深めるためホームページを開設、自治会出身者等との絆を繋ぐため「大久保ふるさと便り」を発行するなど、明るく住みやすい元気なまちをPRし、「過疎・高齢化には負けない」という気概で、自信と誇りを持てる地域づくりを目指している。

南九州市

■フォトコンテスト

ひまわり祭りに訪れた人々に思い出を残してもらうためにフォトコンテストを開催。入賞作品はホームページやカレンダーに活用している。

■天狗伝説の里「楽しい家（や）」

天狗伝説が残る大久保集落にある農家民宿。修学旅行の受け入れから「あくまき作り体験」などを行い、集落の魅力を伝えている。

■大久保ふるさと便り

集落の活動や住民の近況まで、大久保集落の細かな情報を発信する情報誌で、集落の絆を深めている。また、集落のホームページも開設し情報を発信している。

■天狗伝説の掘り起こし

大久保地区に人狗が舞い降りたという証拠である「大狗岩」や、ここは稲作に適している地であると大狗が認めたという伝説を活用して「天狗米」を販売している。

★大久保集落営農組合

鹿児島県南九州市川辺町本別府6661
電話/0993-57-3428（東篤）
https://www.himawari-ookubo.com

●アクセス

南薩縦貫道「川辺IC」から国道225号を西へ約10分 ▸勝目麓交差点から県道29号を南へ約7分→大久保の看板を矢印方向に入る

南九州市

農事組合法人たべた
（田んぼアート実行委員会）

地域の絆がアートになる

いったいどれほどの大きさがあるのだろうか。大地に広がる緑のキャンバスは、何号という規格では到底計り知れないほど大きい。田部田地区の田んぼアートである。しかも油絵や水彩画と違い、風が吹けばまるで生きているように全体が揺らめく。その風を起こしているのが「田んぼアート実行委員会」だ。

地域の思いを込めた田んぼアート

南九州市田部田地区の田んぼアートが始まったのは平成24年のこと。青森県西目屋村の田んぼアートに感動した地区の有志が「自分たちもやってみたい、地域の元気のためになるのであれば」と「田んぼアート実行委員会」を立ち上げ、取り組みをはじめる。主体は「農事組合法人たべた」。地域の田畑を荒廃させないように、そば・米・大豆・飼料用稲などを生産している地域の基幹産業の要となる組織で、それぞれが地元田部田地区に熱い思いを持っている。

田んぼアートは、色の異なる稲を絵の具代わりに田んぼに巨大な絵を描くというスケールの大きな芸術作品。その大きさゆえ、多くの人たちの力が必要で、当初はちゃんとできるか不安だらけの日々であった。しかし、地元住民、幼稚園、子供会の協力があり、40aの見事な田んぼアートができあがった。鹿児島県初の田んぼアートに、田部田地区の絆が証明された瞬間だった。

田んぼアートで広がる地域の輪

最初の成功を収めてから、田んぼアートは毎年欠かさず続けられている。年に一回限りの芸術作品は、映画のワンシーンやその年を象徴する偉人など、モチーフは多様で、話題の「薩摩焼酎」や地元のブランド黒毛和牛「かわなべ牛」、日本一の生産量を誇る「お茶」と知覧武家屋敷に因んだ市のキャラクター「お茶むらい」も登場している。毎年、田んぼの絵柄が変わることで、それぞれの役割分担、協力が不可欠であるため、地区の一体感は年々強くなっていく。田んぼアートは全国に100カ所以上あるが、田部田地区の勢いそのままに、平成28年には田んぼアート全国リミットも開催された。

田んぼアートは田部田地区の活動の輪を広めている。田んぼの貴重な生態系や周辺の豊かな農村風景を肌で感じてもらうため、実行委員会では、田んぼアートの田植え、稲刈りの農業体験ツアーなどを実施し、農村と都市住民との交流を深めている。

これからも田部田地区は、田んぼアートを観光資源の一つとして、南九州市をPRするとともに、地域全体が盛り上がっていけるように取り組んでいく。地域の思いと感動の風は、毎年、田んぼアートの上を吹き抜けていく。

■田んぼアート

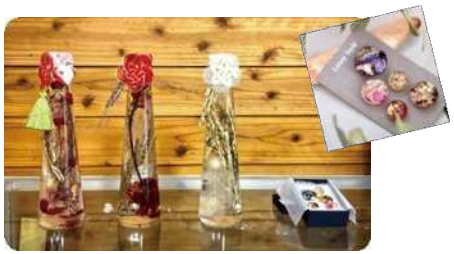
40aの田んぼを使った巨大なキャンバスに、5品種の色違いの苗を絵柄に合わせて植えていくことで誕生する田んぼアート。多くの人の力が必要で、田んぼアートが地域の絆をより強く結びつけている。

■田部田棒踊り

毎年12月の第1日曜日、田部田鎮守神社に奉納される六尺棒を使った6人一組の棒踊り。伝統芸能の継承を通じて、指導する人人たちと継承する子どもたちの世代間交流が行われている。

■田んぼ田植えツアー

毎年、地域住民にもちろん、たくさんの地域外の家族連れや市内小・中学生、園児、各種団体の方々が、田んぼに入り、一緒になって環境活動に参加、地域のファンを増やしている。



■有色稲穂の活用

田んぼアートで使われた色違いの稲穂をハーバリウムやドライフラワーにし、もう一つのアート作品として販売することで、外貨を得ている。

地域活動の概要

南九州市川辺町にある田部田地区では、平成24年から、農事組合法人たべたが中心となって、田んぼアートを実施。以来、40aの水田をキャンバスに、子どもから大人まで活動に参加し、植え付けを行っている。高い位置から見学できるように、例年、高台に足場やぐらを設置したり、10月中旬には子どもたちの収穫体験も実施している。農事組合法人たべたは、田んぼアートを観光資源の一つとして、南九州市をPRするとともに、地域全体を盛り上げ、絆を深めていけるように取り組んでいる。

会長 大薗 秀巳 氏

★農事組合法人たべた
（田んぼアート実行委員会）
鹿児島県南九州市川辺町田部田4357
電話/090-8353-8837（大薗）

●アクセス
南薩縦貫道「川辺IC」から
国道225号を西へ約10分
→田部田交差点を南へ約1分